

秋山泰男君を偲んで



花葉会総会懇親会会場にて
(平成20年10月)

あまりに突然の、あまりに早すぎる訃報であった。さようならもいわずに別れてしまったが、あれから一ヶ月たった今でも、彼がひょっこり現れて、「いよっ」と肩をたたかれるような思いがしてならない。今こうして書

いているときも、大切な

友を失った何ともいいがたい寂寥感と喪失感で打ち

ひしがれる思いがする。

彼とは、昭和53年4月、園芸学部に入學してから30年以上のお付き合いであった。彼はタバコをくわえながら、いつも私たちの輪の中心にいた。コンパでは、ビールの大瓶をぐるぐる回しながらラッパ飲みをして、6秒足らずで飲み干す豪快な芸を披露し、学生のみならず教授陣からも喝采を浴びた光景が昨日のように思い出される。豪快さと繊細さの両面をもつ彼は、歌舞伎の勧進帳の弁慶のような立ち振る舞いであった。その後、共にした数々の無礼講も今では青春時代の大切な宝物である。

花卉研究室で共に学び、卒業後彼は種苗会社に就職し育種の道に進んだ。私は小売業であったが、卒業後も年に1、2回会う機会があると、仕事の話のみならず、プライベートな話にも花を咲かせ、夜も更けるのを忘れて飲み明かした。彼の意見と異なったことをいうと、「おまえ、わかっちゃいない」とよくいわれた。文字で書

くと乱暴な言葉に聞こえるが、この言葉を言っているときの彼の目はいつも優しくかった。

彼はプロ野球の横浜ベイスターズの大ファンであった。自室に飾ってあったと思われる優勝した年のパレードの写真がお葬式の式場に展示してあった。彼は2軍の試合にもよく出かけ、これから活躍しそうな若手選手を探し出すのも好きだった。花を育てるときの目で観ていたのかもしれない。

育種の仕事では彼は大きな業績を残した。近年では数々の賞を受賞したピオラ‘シャングリラ’のシリーズやパンジー‘ルネッサンス’、カリブラコア‘イルミネーション’、カレンデュラ‘ファッション’、ダイアンサス‘ラブソデイ’、ダイアンサス‘セルシオール’など、私の知っているのはほんの一部であろう。AAS入賞のピオラ‘シャングリラ パープル&ブルーマジック’は彼の別れの場の祭壇を飾った。育種は、結果が出るのに長い時間を要すると聞く。これから彼の手がけた品種が、どんどんと世に出てきたのかもしれない。我々の先輩でもあり、彼の勤めたトキタ種苗の時田会長は、「彼は天才的育種センスを有する」と述べられている。企業の損失のみならず、花の業界にとっても大きな損失になったであろう。

浄土真宗の導師によって彼は旅立った。阿弥陀経の中に「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」と浄土に咲く蓮の花のありさまを語った言葉がある。さまざまな蓮の花が咲くお浄土で、彼は何をしているであろうか。早速、花の育種に取り掛かっているような気がする。彼の地で、彼はどんな花を作り出すのだろうか。謹んでご冥福をお祈りします。合掌

(昭和57年園芸学科卒 小笠原誓)